

第32回 東京都中学校美術教育研究大会

第3ブロック中野大会

研究テーマ

つながり、ひろがり、翔く
～感じることと表すこと～



報告集

平成26年(2014年)11月28日(金)

会場 中野区立第二中学校

大会報告書 目次

1. 大会実施要綱 2

2. 研究授業記録

- ① 「私の形を表現しよう」～羊毛を使って～
中野区立北中野中学校 福島 淳子…… 4
中野区立第三中学校 川見 晶子
- ② 「写真を空間で体験し、味わおう」～杉本博司の「劇場」鑑賞～
杉並区立中瀬中学校 福田 龍郎…… 7
- ③ 「スケッチで再発見」～描くことを通してクラスメートを知ろう！～
杉並区立井草中学校 猪口 正和…… 10
- ④ 「つながる形・組み合わせる色」～連続する幾何学模様～
練馬区立上石神井中学校 中三川 舞…… 13
- ⑤ 「紙ひも半立体」～紙ひもから、無数の可能性～
練馬区立練馬中学校 須賀田美佐子…… 17
- ⑥ 「文様版画（スタンプ）でみんなとつながろう」
～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ
練馬区立開進第三中学校 高野 朱未…… 20

3. 全体会

- ① 主催者あいさつ
都中美教育研究会会長
葛飾区立大道中学校長 殿村 靖廣…… 24
- ② 実行委員長あいさつ
大会実行委員長
中野区立第二中学校長 池田 浩二…… 25
- ③ 教育委員会祝辞
中野区教育委員会事務局
統括指導主事 近津 勉…… 26
- ④ 基調提案
杉並区立天沼中学校 大出 和広…… 27
- ⑤ 記念講演「ものづくりと気づき」
義肢装具士 林 伸太郎 先生…… 28
- ⑥ 謝 辞
大会副実行委員長
練馬区立石神井東中学校長 堀井 安伸…… 30
- ⑦ 次回大会副実行委員長あいさつ
西東京市立田無第四中学校長 大野 雅生…… 31

1 大会実施要綱

テーマ 「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～

期日 平成26年(2014年)11月28日(金)

会場 中野区立第二中学校

体育館 (全体会・作品展示)
美術室・普通教室 (研究授業・研究協議)

内容

(1) 研究授業 〈時間〉13:30～14:20 〈場所〉各教室

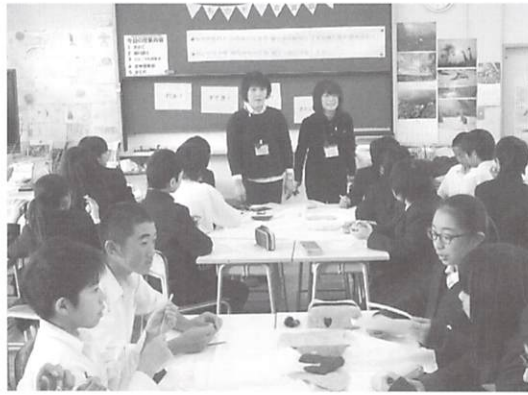
- ① 「私の形を表現しよう」～羊毛を使って～
中野区立北中野中学校 福島 淳子
中野区立第三中学校 川見 晶子
- ② 「写真を空間で体験し、味わおう」～杉本博司の「劇場」鑑賞～
杉並区立中瀬中学校 福田 龍郎
- ③ 「スケッチで再発見」～描くことを通してクラスメートを知ろう!～
杉並区立井草中学校 猪口 正和
- ④ 「つながる形・組み合わせる色」～連続する幾何学模様～
練馬区立上石神井中学校 中三川 舞
- ⑤ 「紙ひも半立体」～紙ひもから、無数の可能性～
練馬区立練馬中学校 須賀田美佐子
- ⑥ 「文様版画(スタンプ)でみんなとつながろう」
～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ
練馬区立開進第三中学校 高野 朱未

(2) 研究協議 〈時間〉14:40～15:20 〈場所〉研究授業と同教室

(3) 全体会 〈時間〉15:30～17:00 〈場所〉体育館

- ① 開会の言葉 司会者 練馬区立光が丘第一中学校 朝倉 弘行
- ② 主催者挨拶 都中美教育研究会会長 葛飾区立大道中学校長 殿村 靖廣
- ③ 実行委員長挨拶 大会実行委員長 中野区立第二中学校長 池田 浩二
- ④ 来賓祝辞 中野区教育委員会教育長 田辺 裕子
- ⑤ 来賓紹介 司会者
- ⑥ 基調提案 杉並区立天沼中学校 大出 和広
- ⑦ 講演 「ものづくりと気づき」 義肢装具士 林 伸太郎 先生
- ⑧ 謝辞 大会副実行委員長 練馬区立石神井東中学校長 堀井 安伸
- ⑨ 次回大会実行委員長挨拶 東村山市立東村山第七中学校長 川崎 達也
- ⑩ 閉会の言葉 司会者

2 研究授業記録



★ 研究授業記録 ①

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	中野区立北中野中学校 福島 淳子 中野区立第三中学校 川見 晶子
助言者	板橋区立板橋第五中学校 増田 裕子 校長	司会者 記録者	練馬区立大泉中学校 三浦 秀樹 練馬区立石神井中学校 中坪 崇敏
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じるこ と 表すこ と～		
領域	A表現(1)イ (3)ア・B鑑賞	題材名	「私の形を表現しよう」 ～羊毛を使って～
特別支援学級	美術：内容(1)(2)(3) 自立活動3の(1)(4)・6の(1)(2)		

(1) 題材設定の理由

羊毛は、ほとんどの生徒が初めて出会う素材で、先入観に左右されることなく主体的な取り組みを促し、通常学級、特別支援学級どちらの生徒も自己肯定感、達成感が高められると考え、選定した。

同年代の仲間（通常学級と特別支援学級）と作品を介してつながり、表現したり、鑑賞したりする活動を通じて、相手の立場になって考え協力すること、交流学习を通じて互いの作品のよさや美しさに気づき、伝え合うことができることを目指した。

(2) 学習目標

- (本時) ・自分や他の人の作品の良さや美しさや制作の工夫を感じとり、認め合う。
・思いやりの気持ちをもって仲間とともに学習する。

(題材全体を通して)

- ・羊毛による表現に関心をもち、「私の形」のイメージなどを基に表現の構想を練り、表現方法を工夫し、創造的に表現するとともに、素材の特性や形の美しさを感じとり、味わう。

(3) 本時の評価の観点

評価の観点	題材の評価基準
美術への関心・意欲・態度 (通常学級)	① 友達の作品に関心をもち、羊毛の特性や美しさや作者の意図や願いなどを感じとり、主体的に作品に対する思いや考えを説明し合おうとしている。 ② 交流及び共同学習に主体的に参加し、理解を深め、行動している。
鑑賞の能力 (通常学級)	③ 制作者の心情や意図と表現の工夫・形や色など材料の特徴や ④ 多様なよさや美しさなどを感じ取り味わう。 ⑤ 自分の思いや考えを伝え合うなどして、いろいろな見方や感じ方などを知り、味わうことができる。
美術への関心・意欲・態度 鑑賞の能力 自立活動 (特別支援学級)	(1) 課題について注目し理解しようとしている。 (2) 作品のよさや美しさを感じ取り、味わおうとしている。 (3) 集中して取り組み、自分の役割を果たそうとしている。 (4) 発言できたり、相手の発言に耳を傾けようとしていたりしている。

(4) 学習活動

活動時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する。 ・制作の様子を画像にて振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">班内発表</div> <ul style="list-style-type: none"> ・班の中で「私の形」を見せて、色や形や工夫したところの説明を添えて自己紹介をする。 ・記入したことを読んで伝える。 ・「いいね」と認め、拍手する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流しやすいグループ分け。 ・一時間の学習の流れを黒板脇に掲示。 ・制作の様子をまとめた画像を見せる。 ・画像に注目させ、羊毛の手触りや性質等の感覚を思い出させる。 ・班での自己紹介の進め方を説明し、見てほしいところに着目させる。 	① ② ③ (1) (2) (4)

活動時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入しながら、全体発表の準備を行う。 見せ方、並べ方、代表で話す人、など相談、役割分担を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体発表・展示会</div> <ul style="list-style-type: none"> 班全員の作品を並べて、みてほしいところ、伝えたいこと、班内発表の感想などを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体発表、展示の準備を通じて、互いの学級の生徒が関わるきっかけをつくる。 発表会の状況に合わせて助言指導する。 発表順はあらかじめ決めておく。 他の班の発表を聞き、作品を鑑賞し、互いのよさや美しさ、工夫したところなどに気付かせる。 時間があれば、全班の発表後、触ってみる鑑賞をする。 	② ③ ④ (2) (3) (4)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通じて感じたこと、気付いたことをワークシートに記入し、伝え合う。 作品を通して、交流できたこと、これからも美術を愛好し豊かに生きてほしいことを確認して、感謝の拍手で終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付きが促される発問、声かけをして互いのよさに気付かせる。 鑑賞した作品や発表について、交流して一緒に活動したことについて、振り返りを書かせる。 羊毛の今後の取り扱いについて説明する。 	③ ④ (2) (4)

(5) 研究協議

●授業者自評

【福島先生】 研究授業を行うにあたって、特別支援学級との交流授業をやってみないかという話になった。私は通常学級しか経験がなく、特別支援学級の学習指導要領を読んだ。授業を組み立てる上で通常学級の授業の参考になることもたくさんあった。一人一人に対して細かな配慮をしていることがわかった。

今回は通常学級3時間、特別支援学級4時間(3時間連続の授業)扱いとし、最後の授業(公開授業では)までは、別々に授業を行ってきた。授業の中では、まず羊毛が出来るまでを写真(パワーポイント)を使い説明した。

また、今回の研究授業で私が一番大事にした「グループでシェアする」ということも授業の最初から取り入れて進めてきた。最後の授業を交流授業として、6グループに1名～2名の特別支援学級の生徒が入り、一緒に鑑賞授業を行った。出来上がった作品はシンプルな形だけれど、一人一人思いが込められていて非常によい作品が出来上がったと思う。

【川見先生】 私は特別支援学級を担当しているので、今回は福島先生と協力して交流授業を行うことができ非常によかった。今回の授業を考える上でポイントになったのは、通常学級にI組が入った授業展開をどうするか。また、通常学級と特別支援学級の完成した生徒作品で見栄えに差がでないものをどう選択するかでした。今回の授業は今後の交流授業を考える上で1つの提案ができたと思います。

(資料提供：NPO法人「感性の教室」 技術指導助言：フェルト作家 みよしまさこさん)

●協議 (3 グループに分かれて協議)

感想：素材の選択がよかった。自分たちと同じように特別支援学級の生徒も考え、ものづくりを理解できたと思う。

質問：中野二中では、特別支援との交流はどうなっているのか。

解答：生徒会での交流や体育祭での交流などを行っている。

感想：羊毛を使った作品づくりを行った授業を見たことがある。そのときは、色にこだわりすぎてしまった点が気になったが、今回は自然素材の持つ色のみで、「私の形」にフォーカスできて、よかったので

はないか。

評価のための作品作りに偏りがちだが、ものづくりの原点を学ばせてもらった授業でよかったと思う。また、発表しやすい雰囲気作りを大切にしていたよかったです。

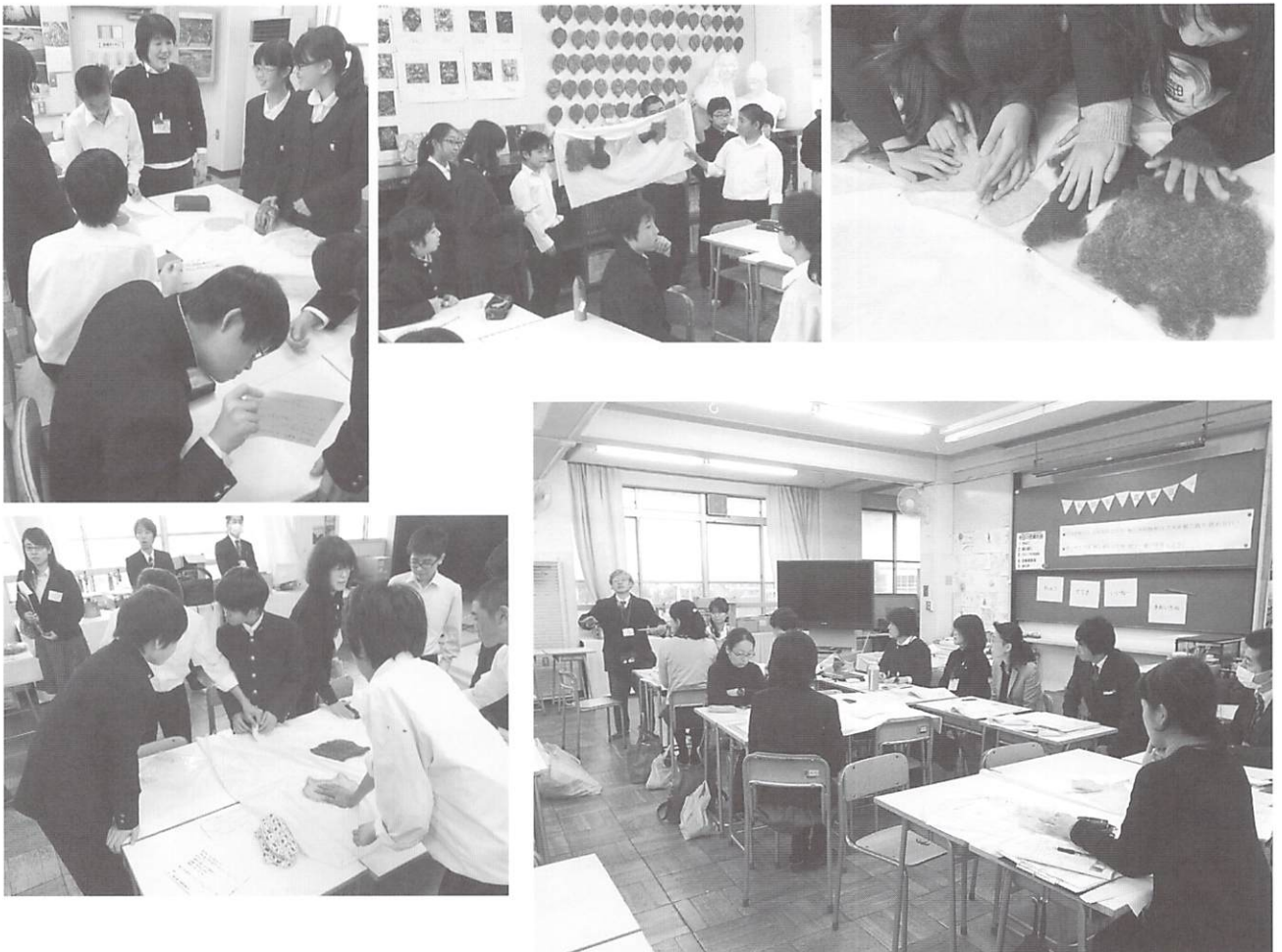
●指導講評（板橋区立板橋第五中学校 増田裕子校長）

特別支援学級の子供たちは授業に対するストレートな反応が見られた。今回は通常学級の中で自立活動を含め、特別支援学級の指導目標は十分に達成されていた。通常学級と特別支援学級の交流授業はインクルーシブ教育システムを踏まえ、今後ますます多くなってくると思うが、美術は他教科に比べて交流をしやすいのではないかと考える。授業は交流でも指導の内容や達成目標、評価は異なる。前もってそれぞれの学級担当がお互いの評価規準を知ることは重要である。

完成作品は通常学級生徒と特別支援学級生徒の差がほとんどない出来栄だったが、作品を通して一人一人の生徒の見取りも重要である。事前に各生徒の目標を教員が想定することが大切である。

授業の進め方では、通常学級のリーダーが他の生徒にアドバイスができるよう授業を通してリーダーを育成するという教員の姿勢も必要である。今回は制作では各々の学級だったが、協同学習をする場面を授業の一部に設定することでより効果的な授業展開を行うことができると考える。今回の授業では、黒板に「今、何をするか」を提示し、矢印で示し、いつでも生徒が見られるようにしていた。これは通常学級の生徒にとっても授業中に思考が止まらない配慮にもなっていた。また、美術室内の雰囲気作りもとてもよく工夫されていた。今日は何をする授業かということをも美術室内の環境から生徒が理解するということが非常に重要である。鑑賞の授業では発表場面が多くなるが、言葉での発表が苦手な生徒でも発表できる教材、教具を考えることも美術科の特徴をいかすことになるので、今後考えていく必要があると思う。

インクルーシブ教育システム：人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者とならない者が共に学ぶ仕組み。（文部科学省HPより）



★ 研究授業記録 ②

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	杉並区立中瀬中学校 福田 龍郎
助言者	府中市立府中第五中学校 中村 一哉 校長	司会者 記録者	杉並区立杉森中学校 シュティーベリング育子 杉並区立高井戸中学校 中谷 桜子
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じるこ と 表すこ と～		
領域	B鑑賞(1)ア	題材名	「写真を空間で体験し、味わおう」 ～杉本博司の「劇場」鑑賞～

(1) 題材設定の理由

写真は、生徒たちの生活に浸透した日常的なメディアである。その写真の中でも、豊かな主題と内容をもつ杉本博司の作品を、大画面と空間で体験させる。そして、生徒たちに相互作用のある鑑賞をさせることで、発見や気づき、新たな見方・感じ方を得ることを目指した。

(2) 学習目標

(本時および題材全体を通して)

- ・ 作品を空間体験的なインスタレーションで鑑賞し、幅広く味わう。
- ・ 作品からのメッセージを想像し、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、美しさを感じ取り、作品に対する考えを深めるとともに、作品に対する自分の価値意識をもって批評しあい、美意識を高める。

(3) 評価の観点

評価の観点	題材の評価基準 (Bの規準)
美術への関心・意欲・態度	(A) 作品に関心をもち、主体的に鑑賞しようとしている。 (B) 他者の意見から、対象の見方や感じ方を広げようとしている。
発想や構想の能力	
創造的な技能	
鑑賞の能力	(1) 発見—作品に対して自分の意見をもつことができる。 (2) 気づきや情報から、作品を見つめ直し、他者との関わりの中で気づくことができる。 (3) 自分の発見・気づきから、自分の中に意味や価値をつくりだすことができる。

(4) 学習活動

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
導入 5分	・ 学習のめあてについて聞く。	・ 鑑賞の内容と活動を説明する。 ・ 作品について、自ら考え、想像しながら鑑賞することを伝える。		
展開 5分	・ 「劇場」の鑑賞をする。 ・ 付箋とワークシート、マジックが配布される。	・ 静かに鑑賞するように伝える。 ・ 2回目の鑑賞の前に、付箋に発見したことや感じたことをメモするように伝える。	(A)	・ 発見と意見の違いを説明する。
20分	・ 再度「劇場」の鑑賞をする。 ・ 作品の中で最も感じたことや発見があったものを各自で考え、付箋に記入し、黒板に貼る。 相互の意見交換として、気づいたことや疑問に思うことを、グループで話す。	・ 記入することは文章ではなく、短文や単語、図にすることを説明する。 ・ メモを書いた人から黒板に貼るよう伝える。	(A) (1) (2)	・ あらかじめ貼る場所を指示する。 ・ 他者の意見を否定させないようにする。
5分	・ グループで話し合い、黒板に貼られた付箋を読みながら、考えを深め、ワークシート2に記入する。	・ 人の付箋の意見を読み、ワークシート2に記入するよう伝える。	(2) (B) (A)	
10分	・ 「劇場」シリーズ作品を5点鑑賞する。1分×5 (5点目は最初の作品) ・ ワークシート3に記入する。	・ 作者の意図や作品主題を説明する。 ・ 同じ「劇場」のシリーズを5点観てから、最初の作品について考えをまとめることを伝える。 ・ 今日の鑑賞を振り返りながら、書くように伝える。	(3)	・ 個と他者との関わりに目を向けさせる。
まとめ 5分	・ まとめ 本時の活動を振り返る。	・ 自分と他者の、それぞれの意見、感じ方、想像と、自分自身で味わうことが大切であると伝える。		・ 表現にもつながる学習内容であることを伝える。

(5) 研究協議

●授業者自評

杉本博司の写真作品「劇場」の観賞でしたが、昨年度、都の教育研究員として行った研究授業を元にしています。研究主題である「観賞の能力の育成」から生まれた新たな課題があり、機会があればまた研究授業をしたいと考えていたところ、この大会のお話をいただき、授業をさせていただきました。

基調提案である「つながり、ひろがり、翔く」との関連については、ひとりで感じて味わうのではなく、お互いの見方や感じ方を知りながら、相互作用のある観賞をさせたいと考えました。昨年の研究授業の課題でもあったこの部分を意識して、今日は授業を行いました。しかし、班で話し合ってくださいと伝えても中々盛り上がりず、難しいと思いながら進めました。授業中、大型の付箋を使用しましたが、これやワークシートから抜粋した文章をまとめ、生徒たちに配る予定です。そうしながらお互いの見方、感じ方を知った上で、さらに自分の観賞の力を高めること、これが基調提案「つながり、ひろがり」と関連づけられると考えます。全3回の授業で、1回目は同じ杉本博司の写真作品「ジオラマ」の観賞、2回目がこの授業で、3回目に写真作品を撮ることを想定しており、基調提案の「翔く」にあたります。

今日の授業で最後まで迷ったことは作者の言葉をどこで入れるか、あるいは入れないかということです。1回目の授業で作者の説明、コンセプトを生徒に伝えました。結果、自分たちそれぞれの想像や考えに対し、唯一の正解を言われたように、「なんだ、そうなんだ。」と生徒たちの気持ちが下がった様に感じました。今回は作者の言葉をスライドに用意していましたが、文で示すと同じ様な結果になるのではないかと感じたので、迷いましたが結局それは見せず、最後に話して伝えました。

生徒も色々な子がいますが、良い作品を観た時の反応からは、皆が真摯に作品に向き合っているのを感じます。これからも良い作品を観賞し、感じて味わって欲しいと思います。

●協議

質問：杉並区立井荻中学校の松村です。付箋の発表時、単語ではなく漢字一文字にしてしぼりを作ると生徒の言語活動の面から見て興味が増すのではないのでしょうか。教室を暗くするのは効果的でとても良かったです。

解答：「文章力によらない鑑賞」をした上で単語を設定しました。あまり制限をつけると、出てくるものも出てこないと思い、ゆるいくくりで単語にしました。

質問：杉並区立中瀬中学校の濱谷です。擬似体験で劇場を意識しているので最初のつかみは良いと思います。子供たちも興味深く授業を受けていたが、付箋の色が暗いので、もう少しわかりやすい色のほうが良かったのではないかと。いつもと違うぞ、という鑑賞をしたうえで、体験を取り込むというのは良かったです。

解答：ありがとうございます。

質問：西東京市田無第一中学校の濱脇です。貼ったものをグループ討議で付箋を貼り、考えを深めていったと思いますが、新たな課題が見つかったか教えて下さい。

解答：より班で活発に討議して欲しかった。机も無く、椅子のみの限られたスペースで思ったような活発な話し合いにはなりません。付箋だけでなく、ワークシートをお互いに読ませたかったが、数人のピックアップに止まってしまった。この1時間の中で十分にできたとは思いません。また機会があればグループワークが出来ると良いと思っています。

司会：場所の考え方も色々あるかと思っています。コンピュータ室とかであればよりよい授業ができるかもしれませんね。

質問：墨田区立墨田第一中学校の伊藤です。今回の劇場だと、マグリットの作品を対比として見せながら進めてはどうかと思う。例えば日本文化など色々な視点をもって見せて欲しい。杉本博司がこういう作家性を持っているんだな、というような生徒への誘いかたもあると思いますが、福田先生はどうお考えでしょうか。

解答：作家の作品を写真的、美術的に説明していくといった方法もあるとは思いますが、この作品に限り、空間で写真を体験し、仮想的に劇場を体験させることに重きを置いています。美術館とは違うが、空間で作品を体験するという機会がなかなかないので、こういった形をとりました。作者本人がこの観賞の仕方を知った時、どう思うかは分かりません。しかし、ある生徒が作品を観た瞬間、「俺らじゃん」と発言した。作品と同じ、椅子が並びスクリーンがあるという劇場的な空間に今、自分たちがいると

いうことを気付いてくれたのがとても嬉しく、良い言葉だと感じました。その意識を共有した生徒たちが、何割かいたと感じました。これにより、ある程度ですが目指す観賞になったと思います。

●指導講評（府中市立府中第五中学校 中村一哉校長）

中村先生：まず、鑑賞の行為というのはどういうものか考えてみたいと思います。「活動」ではなく「行為」。その「行為」を通して生徒たちは鑑賞の能力を身に付けていくのだと思います。今回の授業で生徒の鑑賞の能力が高まった部分はどこでしたか。

福田先生：教室に入り最初にこの作品を見た時、意見を交換した後の付箋を貼った時、この2か所です。

中村先生：いつもと違う鑑賞の授業形態で、前半は生徒にとってスリリングだったと思いました。写真を空間として体験するという事ですが、写真を映像にして示すことで、生徒たちに感じて欲しかった空間とはどのようなものですか。

福田先生：普段見たり、行くことのない場所での鑑賞を想定しています。作品の中に同化していくような空間です。

中村先生：導入としては面白いと思いますが、そこで鑑賞の能力が高まったのかというと、もう一つ仕掛けをしないとなかなか能力は養われないのではないかと思います。学習指導要領のB鑑賞（1）アには「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、作品などに対する自分の価値意識をもって表現する。思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること」ということが示されています。福田先生の授業を見た時に、「価値意識をもって批評し合う」という言葉が強く印象に残りました。鑑賞という行為を通して、子供たちは自然に湧いてくる思いや感情を話し合いながら、自分の価値意識を形成していく訳ですが、2、3年生で扱う鑑賞の場合には「深まり」ということが大事になってきます。私は、この授業であれば、作者のことをどう取り上げるか。作者の表現の意図について言うべきではないかと思います。作品だけを見た時と、作者の意図を理解した上で見た時では、生徒の作品の見方が変わり深まって行くのではないのでしょうか。なぜ作者がこういう表現をしたのか、2年生だったら投げかけてみてもよいと思います。1枚の写真だけれど2時間色々なドラマが凝縮されて、最後に映像ではなく光が残った。その意図とは何だろうと考えていくことから、より作品を見ようと思う気持ちが強くなると思います。その点で、なぜ5枚同じ撮り方なのかを比較させていくのは大事な視点だと思います。類似点、相違点、それぞれ違う劇場だけれどスクリーンはなぜ全て白いのか。この白いスクリーンに作者がこめた思いは何なのだろうか。そこにどう向き合うかが大切で、作者の思いに考えを寄せていきながら、生徒自身が自分なりに考え、価値意識を深めていってもよいと思います。この授業の後で、表現に発展させて写真を取り入れた授業に繋げた時に、どういう写真を撮るかということを想定しながら、その際に求められる視点の工夫のようなことをこの鑑賞の中に位置付けていくこともできると思います。その時に、写真を空間の中で鑑賞した体験やそこで深まったことが、何らかの形で次に生きて、つながりが出てくると、表現と鑑賞の一体化が図られていくように思います。この題材はとても面白いと思っています。共通事項に示された「光の扱い」をスタンドグラスやランプではなく、写真で問いかけるのはとても斬新だと思いました。ぜひ、福田先生には、今後もこのテーマを引き続き深めて、鑑賞題材として練り上げてほしいと期待しています。



★ 研究授業記録 ③

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	杉並区立井草中学校 猪口 正和
助言者	日野市立日野第四中学校 須藤 昭人 校長	司会者 記録者	杉並区立天沼中学校 大出 和広 杉並区立東田中学校 鈴木 ひとみ
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じるこ と 表すこ と～		
領域	A表現(1)ア	題材名	「スケッチで再発見」 ～描くことを通してクラスメートを知ろう!～

(1) 題材設定の理由

本題材はスケッチを通じてクラスメートのことをより知ろうというものである。

4月の入学式から半年経ったこの時期に、改めてクラスメートの顔をよく観察して、自分の手を動かしてお互いの顔をスケッチする。タッチの強弱、濃淡。強調や省略。完成した作品からは、作者が感じた相手の生命感、個性、性格、雰囲気が表出し、絵だからこそ味わえる新たな発見があると考えられる。また描かれる側も、相手が自分をじっと見つめ、丁寧に描いてくれるのは恥ずかしくもあり、また嬉しくもあるのではないだろうか。描く・描かれるという関わりの中で互いを見合い、感じ取り合いながら相互理解を図り、他者とのつながりを改めて感じさせていく。

(2) 学習目標

(本時) モデルの特徴や雰囲気を自分の感性でとらえようとしている。

(題材全体を通して) 描くことを通じて相手のことを知る意識を持たせる。

(3) 評価の観点

評価の観点	題材の評価基準 (Bの規準)
美術への関心・意欲・態度	対象を観察しようとしている。
発想や構想の能力	モデルの特徴や雰囲気をとらえようとしている。
創造的な技能	意図に応じて道具の使い方を工夫しようとしている。
鑑賞の能力	自分の作品や友達の作品について良さを感じ取り、作者の意図や心情を理解して作品を鑑賞しようとしている。

(4) 学習活動

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
導入 5分	・教員モデルをスケッチしたものを1枚にまとめたプリントを配布。各自の個性を感じる。前時のポイントを振り返る。	・印象に残る作品とその理由をあげさせる。 ・よく見て描いてくれて嬉しいことを伝える。		・同じ人を描いても出てくる味わいは違うことに気付かせる。
展開 40分	・前回決めたペアになって互いをスケッチする。	・描くことを通じて相手のことを知る意識を持たせる。	・関心意欲態度 ・発想構想 ・創造的な技能	・「似る、似ない」よりも、じっくりみて描く姿勢が大切であることを再確認させる。
	・ワークシートに自分の工夫や、描くことによって気付いたこと、感じたことを書く。 交換して互いに感想を書く。	・描く前と後で何か変わったことはないか視点を向けさせる。	・鑑賞	・相手のよいところを見つめる。描かれた生徒にとって嬉しい言葉を考える。
まとめ 5分	本時の感想を書く。			

(5) 研究協議

●授業者自評

今回の研究授業に際して、基調提案のテーマ「つながり、ひろがり、翔く ～感じることと表すこと～」を受けて、友人同士をスケッチしようという題材を選んだ。本題材は、スケッチを通じてクラスメートのことをより良く知ろうということを意図している。スケッチは、タッチの強弱や濃淡を考え、強調や省略といった工夫をしながら描くものである。描き手にはモデルを「見る」という観察を通して、相手の個性や性格などについての新たな発見があると考えた。また描く－描かれるということを通して、友人同士の相互理解が深まると考えた。本来はスケッチを描き終えた後に、感想を言い合う時間を設定することが理想であるが、今日の授業では何人かの生徒にスケッチ後の感想を述べてもらった。ワークシートに書かれた感想からは、こちらの意図するところを感じ取り、制作に取り組んでいた様子がかがえた。この授業を通して育成したいと思っている資質や能力は、見る力・感じ取る力・考える力・描く力である。また、良さや美しさを感じ取り鑑賞する力、自分の思いを語らうことによって鑑賞する力を育成することも重視した。

●協議

感想・意見：

- ・先生が穏やかに笑顔で指導しており、他校の生徒でありながらしっかりと授業に取り組ませていた様子が感じ取れた。
- ・前時の授業で生徒が描いたスケッチを全員分コピーし、1枚にまとめたプリントを配布したのが良かった。
- ・紙の大きさと時間については改善の余地があるのではないかな。
- ・顔のスケッチは難しいが、ポイントを2つに絞って板書し、説明した点が良かった。
- ・自校では全身を描くことを目標にして描かせることが多い。顔だけを描かせるのならば、ペアにするなど近距離で描かせても良かった。前にモデルを立たせるならば、全身か半身のスケッチが良かったと思う。
- ・スケッチに夢中になり、集中していた生徒の様子が伝わってきた。生徒に描く楽しさやねらいが伝わっていた。
- ・導入時の正中線の説明は大変わかりやすかったが、それでも理解し切れていない生徒がいて、先生の途中のアドバイスで改善されていた。

質問：使用したワークシートについて、スケッチ部分の枠が小さすぎるのではないかな。もう少し大きい方が良かったのではないかな。

回答：前時の授業でスケッチを大きい枠に描かせたところ、描ききれない生徒が多かったので小さくしたが、工夫の余地はあるかもしれない。

●指導講評（日野市立日野第四中学校 須藤昭人校長）

本時の題材であるスケッチは、前の学習指導要領から全ての生徒に基礎・基本を身に付けさせることを目指して登場した。現行の学習指導要領においては、スケッチは内容の取り扱いに移った。本時の内容は、スケッチの活用①に該当する。2時間で授業をするにあたって、画面のサイズに関しての課題は残るが、制作時間と指導内容の関係性については、今後の授業で考慮してほしい。

また、研究をする際には、基調提案を押さえて授業を展開することが大切である。今日の授業は、基調提案の中でも特に「つながり」を重視した授業展開であったと思う。「他者（個や集団）とのつながり」や「自己の内面とのつながり」に該当する。そのほかにも、相手とつながり、友達と話しあう中で拡張・深化していくという「ひろがり」や、「翔く」といった面もある。生徒が今後どのように力を発展させていくかは未知数であるが、未来に向かって構成されていくものである。

大切なことは「つながる」であるが、「言語活動とともに」と基調提案にはある。

今日の授業では、教師が導入時に前時の作品について「例示」し、印象深い作品について尋ねる「発問」をし、生徒が「聞き」、プリントを見て「読み」、感想を述べて「話す」などの活動に取り組んでいた。このようなやりとりが言語活動に当たる。美術の場合、このようなやりとりは言語能力を高めるために行うのではなく、

2. 研究授業記録

言語活動をより活発化させたり充実させたりすることにより、美術の表現力や感性を高めることを目的としている。

今回正中線のことに触れた説明や解説をしたあと、生徒に発言を促した場面もあったが、生徒同士の話し合いの場面があっても良かった。机間指導中に示唆や助言をしていたが、こうした教師の個別の言葉掛けも、重要なものである。また、「良くできたね。」と、教師が称賛することも、生徒の力を伸ばすことにつながる。スケッチ後に「周りに見せ合ってみましょう。」という場面があったので、今回の授業は、表現だけでなくB鑑賞も入れて良い内容であった。

言語活動の「聞く」「話す」「書く」「読む」の4つをうまく活用することで、美術の学力の向上につながる場面がある。

本日の研究授業のように、自分の授業を振り返り、改善することは、生徒たちが良くなることにつながる。ぜひ今後も研究を継続してほしい。



★ 研究授業記録 ④

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	練馬区立上石神井中学校 中三川 舞
助言者	八王子市立中山中学校 香村 智 校長	司会者 記録者	練馬区立開進第一中学校 畝村 明男 練馬区立大泉西中学校 藤田 佳子
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じること と 表すこと～		
領域	A表現 (1) (2)	題材名	「つながる形・組み合わせる色」 ～連続する幾何学模様～

(1) 題材設定の理由

1年次に学習するデザイン分野を基に、より発展的な題材として設定した。この題材では、幾何学的な模様と具体的な絵を組み合わせながら、回転させることで連なるカードを制作する。そして完成したカードを回転させながら、「美しい・面白い」と感じる形や色の組み合わせを創り出すことで、生徒の発想力や想像力を育むことを目指す。

(2) 学習目標

(本時)

本時では、カードの基本となる4枚を一度仕上げることで、各自の作品を見直す機会とすることを目標とした。この段階で修正する部分があれば次時に修正した上で、それ以降の組み合わせのバリエーションを増やす作業に入る。

(題材全体を通して)

形や色を組み合わせ「美しい・面白い」と感じる豊かな感性を育み、カードを通してお互いの作品を見比べながら他者と意見を交わすことを最終的な目標とする。作品の制作過程には、生徒同士で意見を交換し合い、より良い構図になるよう試行錯誤する手順を設ける。そうすることで、個々の創意工夫を尊重しながらも他者からの視点を取り入れるといった、多角的な視野を身につけさせたいと考える。

(3) 評価の観点

評価の観点	題材の評価基準 (Bの規準)
美術への関心・意欲・態度	自分のねらいを基にしながらも他者の意見を取り入れ、より良い作品となるよう積極的に修正・改善している。
発想や構想の能力	今まで学習したことを生かし、創意工夫しながら意図的に発想・構想している。
創造的な技能	自分で設定した主題に合わせ、意図が伝わるように表現方法を工夫している。
鑑賞の能力	設定された主題を汲み取り、形と色の組み合わせによる造形的な美しさ、作品の良さを味わうことができる。

(4) 学習活動

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
導入 5分	○前時の振り返り →カードがつながる仕組みを再確認する。	●プレゼンテーション形式を用いて、生徒自身に作品を見せながら確認させる。 →回転させても、他のカードとつながっているだろうか。	・仕組みを理解し、自分の作品作りに生かしている。 (関心・構想)	・改善点がある生徒には、展開時に個別に対応していく。

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
展開 40分	○アイデアスケッチを画用紙に転写する ・トレーシングペーパーを利用して、4枚の画用紙に写す。 ○写した線を基に、着彩する ・色鉛筆やカラーペンを使って着彩する。	●手順を説明しながら、全体で進めていく ・トレーシングペーパーに下絵を写し、裏側から下絵部分を鉛筆でこする。 ・画用紙に合わせて、表側から線をなぞる。 ●効果的な着彩例を紹介する ・同系色やアクセントカラーを考えながら着彩すると、バランスがとりやすい。	・制作手順に沿って、計的に進めている。 (構想・技能) ・効果的な色使いを意識して取り組み、創意工夫している。 (構想・技能)	・机間指導を徹底し、生徒の進度を把握しながら制作を進める。 ・着彩時には、生徒自身のイメージやアイデアを尊重させ、対話を通してより良い色の組み合わせがあるかを共に考えるようにする。
まとめ 5分	○今後の展望について ・カードを使った取組について、説明を聞く。	●今後、どのような取組が出来るのか ・カードを使って、どのような形や色の組み合わせが作れるかなど、今後の展望を説明する。	・今後の授業に関して、どのような展開があるのかを考えることに、意欲を示している。 (関心)	

(5) 研究協議

●授業者自評

今日は、お忙しいところありがとうございました。今回、研究授業で「つながる形、組み合わせる色」ということで授業提案をさせていただきました。一言でまとめるのが難しいと、改めて実感いたしました。幾何学構成の回転してもつながっていくカードで、紀要では、10時間扱いのもので、実際はもう少し後のところをやりたかったです。アイデアスケッチの所でしたが、今回急遽2時間目でなんとか形にしたいと考え、美術の先生とも相談させていただき、このような形に替えさせていただきました。子供たちを見た限りでは、私のつたない授業によくついてきて、なんとか形にしようという場面も見られたので、頑張っていたのではないかと思います。細かく言うときりが無いのですが、形がつながるといいう表現が、そもそも子供たちに伝わりづらかった。それは1回目の乗り入れ授業で感じたことでありますし、今日もなかなか難しい状況でした。回転させても全く同じような円や正方形のようなものも見られ、本来の授業ならば個別に指導するところで、なんとか2時間目で形にもっていきたいという方が先行して、個別指導が出来なかったことに心残りがあります。子供たちは4枚1組でやったが、9枚1組、16枚1組でやって、それを基にどうやって組み合わせたらきれいに見えるか、子供たちがバリエーションを考えた上で、コミュニケーションを取って、話し合っって言語活動を取り入れる。紀要の流れの方には実際には書いてありますが、面白いと思って、みんなが気に入ったものを作って欲しかった。ですが、今日は、とりあえず形だけでも作ったという子が大部分を占めていたと思います。昨日、矢作先生に子供たちがこのような状況ですと方眼紙を見せていただいたのですが、とりあえず形だけでもという、たぶん男子だと思いましたが、見られました。やはり、細かいところまで、まだまだ手が届かなかったと思いました。また、今日の授業の終わりをどのようにまとめてよいかということが、抜け落ちてしまったので、こういうことをやったんだという気持ちを子供たちの中に残せれば良かったということが一番反省しています。皆様からお気付きのことがあれば、細かいことでも構いません。ご指導いただければと思います。

●協議

司会 大会テーマ「つながる、ひろがる」に即した題材だったと思いますけれども、「つながる前に基礎基

本が大切だな」というところがあると思います。一人一人の方からアドバイス、ご質問などありましたら、いただけたらと思います。

質問：中野区立緑野中学校 吉田先生「これはデザインになる訳でしょうか。方眼紙に模様を描いて写して画用紙に写し替える。白い紙より方眼紙のほうがきちんと線と線を合わせられる。同じものの繰り返しになって、基準線もだんだんずれていったり、手も汚れると考えたとき、替える必要があったのか。方眼紙の方がより先生の伝え方が伝わるのではと思いました。」

解答：方眼紙に線が入っていた方が目安になるということで、方眼が入っているものを用意しました。きちんと線を合わせたいという意識をもたせたいと考え、方眼紙を使いました。

質問：渋谷区立代々木中学校 近藤先生「面白かった。子供があきるかな。2度やっている。方眼紙で良かったのではないかな。2時間の中でつなげることをメインにするのであれば、4つの中の一つを膨らませるような形の方が良かった。方眼紙を使った方がやりやすいと思った。機材の不具合は、手で描けば良かったのでは。机間指導した時に、一人一人かける言葉が違うといけないと思った。キャラもの、花模様が完結していた子もいた。つなぎあわせてみようとか、4枚だけでなく2枚にしてみたり色々できた。まとめとして、カメラは発想の段階で「こうやってみたら面白いね」など、紹介するのに使用し、それでもっと発想していくことができた。それが、更にテーマになるんだろうね。時間は10時間ものなのだから、もっと発想の時間を取ってあげるのが良いと思う。つながりにくいものも見せてあげても良かった。」

解答：書画カメラはこの学校で借りたもので、私の中学校の方で、リハーサルはやっていたが、こちらでリハーサルをやる時間がなかった。書画カメラ、プレゼンテーションソフトがボタンで切り替わるものだった。

質問：中野区立緑野中学校 牧井先生「機材は、使って効果が上がるのが良いが、今の段階は使う段階、使い方を考える段階にある。先生の持ち前のしゃべり方が、落ち着いてゆっくりしていて、子供たちの良い所を引き出すところが良かったと思います。」

質問：練馬区立豊玉中学校 江川先生「導入部分でテキスタイルの連続模様を見せても良いのではないかな。シルクスクリーンなど交互に入れ替えると連続模様になるということだけ分かれば良いと思います。方眼紙の切り口をここの2点を必ず通るデザインにするなどすると、もっとつながりや広がりのあるデザインにできたり、発展性が出てくると思って見ていました。」

質問：練馬区立大泉桜学園 大野先生「色々な機材を使ってすごいなと思いました。私も授業で書画カメラを使っていて、一番難しいと感じるのは、生徒たちが制作しているところに目を向かせるよりも書画カメラの扱い方に目がいってしまっていた。生徒を制作の方に目を向けさせつつ、どういう風にそういった機材を使っていくかということを考えないといけないと思いました。」

質問：練馬区立旭丘中学校 森澤先生「後半のトレースしたり、色を塗っているところを見させていただきました。後半部分だったので、子供たちが倒れてしまったり、つぶれてしまった子がいて、作品と向き合う時間を長く取ることの難しさ、私も授業で感じていることですが、簡単な作業でもないなと思いました。後ろを向いている子も気になったのですが、いっそ机をつけてしまったら他の子のアイデアをもらいつつというのも面白かったのではないかなと思いました。」

司会：「いろんな意味で勉強になったと私も思います。それでは、講評をお願いいたします。」

●指導講評（八王子市立中山中学校 香村 智校長）

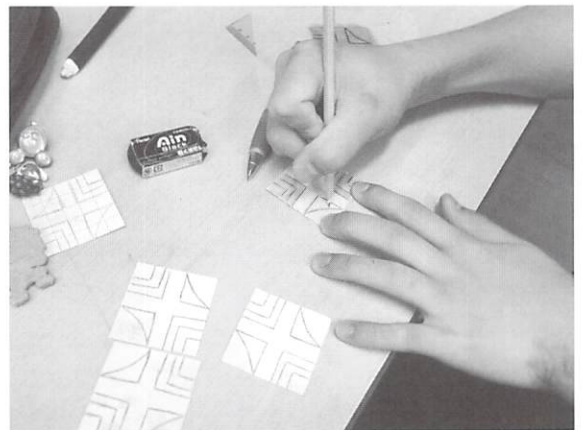
まだ、教職経験の少ない中で、都中美の大会で研究授業をやっていたことに対し、敬意を表したいと思います。本時の課題点等はすでに協議の中で言っていた。全体として、非常に落ち着いて授業を展開されていた。生徒全員に対して、言葉のスピード、大きさ、展開も違和感なく、伝えることができています。本当に素晴らしいなと思いました。なおかつ、パソコンの不具合や色鉛筆も15人ぐらい忘れてしまうなどがあったにもかかわらず、動揺していなかったように見えて、落ち着いて対応できること自体、とても素晴らしいと思います。教師として見習わなければいけないなと感心しました。

デザインが一つの正方形の中に完結してしまっている子は、自分が何を表しているのか分からない。最前列の5人のうち2人は、そのような状況でした。具象物を描いたものは分かる。太陽、手裏剣みたいなもの

もあれば、花や動物もありました。主題というかテーマが曖昧だと表現につながりにくいようでした。でも自分はこれを描きたいと思っていてもつなげたら、こんな形みたいなものもあるかな。そういう面白味もある。後半で色をつけると、自分の気持ちと、色とのつながりは弱くなっていくのかなと感じました。投影機を有効活用して、回したり動かしたり、つなげたりする工夫があっても良かったのでは。トレーシングペーパーの使い方も工夫できたと思います。ただ、テーマを意識してやったことは良かったと思います。

プリント1をご覧ください。大会テーマ「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～(1)のつながりは、自己の内面とのつながりや他者の友達の意見を聞いて広げたりしたことで、出会い、発見につながるという共通事項が取り入れられていました。そこに教師がどのように関わっていくのが大切です。小学校から中学校に移行してくる学習指導要領で、小学校から高校までつながっている中の中学校2年での1時間を意識した、資質、能力の育成に、今後取り組んでいただけたらと思います。中学校の3年間の美術の目標は、総括的に「豊かな情操を養う」が目指す子供像です。子供たちが毎時間、生き生きと授業に臨めるような授業作りをして、生徒たちの新しい視点での自己の理解、他者とのつながりを意識して、今回の学習指導案を立てられていた点が素晴らしかった。

今日の1時間で子供が何を得られたのか、目的をしっかり提示し、1時間の中で獲得することを明確にすればさらに良いと思いました。



★ 研究授業記録 ⑤

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	練馬区立練馬中学校 須賀田 美佐子
助言者	杉並区立井草中学校 大野 正人 校長	司会者 記録者	練馬区立大泉第二中学校 高村 輝美 練馬区立八坂中学校 久保田李夏
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じること と 表すこと～		
領域	A表現 (1) (3)	題材名	「紙ひも半立体」 ～紙ひもから、無数の可能性～

(1) 題材設定の理由

「紙ひも」は独特な質感の素材である。そのまま扱えば堅くて細く、広げれば薄くカサカサとした味わいのある一枚の紙となる。紙なので塑性力もあるため、折り曲げたりクシャクシャに丸めたりと、加工した状態をキープしながらも貼り付け方によっては土台から飛び出させることもできる。この特徴ある素材からどうイメージを膨らませ、素材感を生かした作品に仕上げることができるか、発想力、表現力が大いに試される。本来この題材は、10時間ほどかけて作品を完成させている。研究授業を行うにあたり、作品のサイズを小さくし抽象表現に限定することで、短時間だからこそその個性的で大胆な発想が生まれまいか、その可能性を探っていきたいと思いこの題材を設定した。

(2) 学習目標

(本時)

- ・紙ひもでの表現方法を工夫し、密度の高い抽象表現を目指す。
- ・お互いの作品を鑑賞し、紙ひもという素材を通して生まれる様々な表現があることを理解する。

(題材全体を通して)

- ・紙ひもという素材を生かした、抽象表現を大胆に行い、創造することの楽しさを味わう。

(3) 評価の観点

評価の観点	題材の評価基準 (Bの規準)
美術への関心・意欲・態度	紙ひもという素材に関心を持ち、主体的に様々な表現方法を試し、工夫しようとする姿勢が見られる。
発想や構想の能力	紙ひもの素材感を理解し、その性質にあったテーマを考えることができる。
創造的な技能	表現したいイメージを具体的にもちながら、紙ひもの質感を生かし、のりやセロテープ、はさみなどをうまく使ってイメージに合わせて制作しようとする姿勢が見られる。
鑑賞の能力	作品の造形的なよさや美しさを理解し、作者の表現の意図などを感じ取り、自分の思いや考えをもって作品のよさを味わうことができる。

(4) 学習活動

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
導入 10分	・抽象作品を鑑賞し、抽象表現について理解する。	・一般的な抽象作品と紙ひも作品を関連づける。 ・紙ひもの様々な表現例を提示し、作品作りの参考とする。	関心 技能 鑑賞	抽象表現を堅く考えさせず、伸び伸びと表現し楽しむことを意識させる。
展開 30分	紙ひもを加工していく中で、造形的な面白さを発見し、様々な表現方法で紙ひもを土台に貼り付けていく。	同じ作業の繰り返しを行うなど、連続的に生み出される造形美のよさについても触れ、効率よく作業をさせつつ、できるだけ画面全体	関心 発想 技能	作業が進まない生徒には、自作の表現方法の中から発展しそうな技法を指導者が探しだし、そこから展開していけるよう

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
		に盛り上げるよう貼り付けさせる。		助言する。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品にタイトルをつける。 作品の鑑賞を行い、今回の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの生徒作品を紹介し、様々な表現方法があることを理解させる。 	関心 鑑賞	紙ひもという道具が、美術の題材になり得る意外性について理解させ、日常生活と美術とのつながりについて考えさせる。

(5) 研究協議

●授業者自評

紙ひも作品との出会いは、20年程前の大田区の区展であった。2作品だけの展示で、誰が出したのかも分からなかったけれども、おもしろいと感じた。その後取り組み始め、今10年程経過したところである。資料があったわけではないが、始めるきっかけはそこからであった。

今回、研究授業に「紙ひも半立体」を選んだ。「普段道具として使っている日用品でも、いろいろな工夫をすれば美術の作品としておもしろいものになること」を通して、日常生活と美術の「つながり」を感じさせる、本大会のテーマの「つながり」という部分に沿っている内容である。

普段は10～11時間程かけて制作している。凝る生徒は持ち帰ったり居残りをしたりして20～30時間制作しているために、今回2時間でどこまでできるか心配をしていた。しかし、対象クラスは発言も多く、面倒がって取り組まない様子もなく、最後まで意欲的に取り組んでいた。

●協議

質問：素材の色は茶色の一色のみ使用しているのか。色を変えたりつけたりしたことはあるか。

解答：着色をしたことはない。あえて茶色だけで、どう表現するか。芯に新聞紙や厚紙、針金を使用し立体感を出す場合もあるが、「茶色い紙ひもという制約の中でどう表現するか」ということにこだわっている。加えて、10時間設定でも授業時間だけでは完成しない生徒が多いこともその理由の一つである。10時間以上時間を取ると飽きてしまったり、やり過ぎてしまったりする生徒が出てくる。

また、自由に作ってよい、と言われると、どうしたらいいのかわからない方向性が分からず手を動かさない生徒や、ハートや既存のキャラクターにはしる生徒が出てくる。それを未然に防ぐために、エスキースを描かせ、ある程度の方向性をもたせてやることをしている。

質問：のりを使用していたが、ボンドを使ったことはあるか。

解答：基本的にのりを使用させる。乾く際に接着するので、薄く塗っておくと良いこと、出し過ぎるとうまくいかないことを声かけしている。立体的に立たせたい生徒には、木工用ボンドや布ガムテープ、針金、新聞等を用意しておき対応する。

質問：「密度を高める」という言葉を使うようになった流れを知りたい。また、制作期間中の保存はどのようにしているのか。

解答：「密度を高める」はここ2、3年で使うようになった。終わりが見えず、「もう少し続ければいい作品になるのに」やめてしまう生徒に対して、どのような声かけをしたらもう少し頑張ろうという気になるか考えた結果、「密度」と「連続性」を思いついた。

保存方法は、始めは平面的な作品が多かった。今はどんどん大きくなっていくために、班ごとに45ℓや90ℓのゴミ袋を用意し、そこに入れさせ、美術室の全ての棚、準備室、廊下を使って保存している。1学年5クラスの学校で指導したことがあるが、なんとかなった。

質問：2年生での実施であったが、1年生に取り組みさせたことがあるか。また、評価はどのようにしているか。

解答：2年生でしか実施したことがない。しかし3年生ならもっとテクニカルに、1年生ならより無邪気に制作するのではないか。1年生に具象を取り込ませると、既存のキャラクターを作りたがると予想されるため、抽象に限って取り組みさせた方が無邪気な発想を大切にできる。

評価に関しては、「発想や構想の能力」の配点を高くしている。しかし、美術科の教員が作品や制作過程を見ればどのくらいの評価を付ければよいか意見が一致するであろうが、そうでない保護者などに言葉で説明するのは非常に難しい部分がある。「創造的な技能」に関しても同様である。

●指導講評（杉並区立井草中学校 大野正人校長）

本時の打ち合わせをしたのは前日であったが、どのような授業かは作品を見て以心伝心、イメージすることができた。当日、板書や時間中に片付けをするかどうかの相談もあったが、鍵は生徒たちが「イメージング」できるかどうか、そこに集中して欲しい。「マインドピクチャー」が浮かんでいる生徒はどんどん制作するだろう。本時はそれを大切にして欲しいと伝えた。

質疑応答で自由にしたら困ってしまう、という例があったが、テーマ、材料、技法等のどこを固定するか、自由にするかを工夫することで、生徒が発想しやすくすることができる。本時は茶色、セピアの紙ひもだったが、白や紺などの選択肢もある。例えば、本時のセピアは統一感があり、わらのような、糞虫のようながさがした質感がある。ハイキーで陰を付けて表現させたい場合は白であろう。

形態のこと、色彩のこと、質感のこと。この3つは美術を教える中で絶対に押さえてほしい。

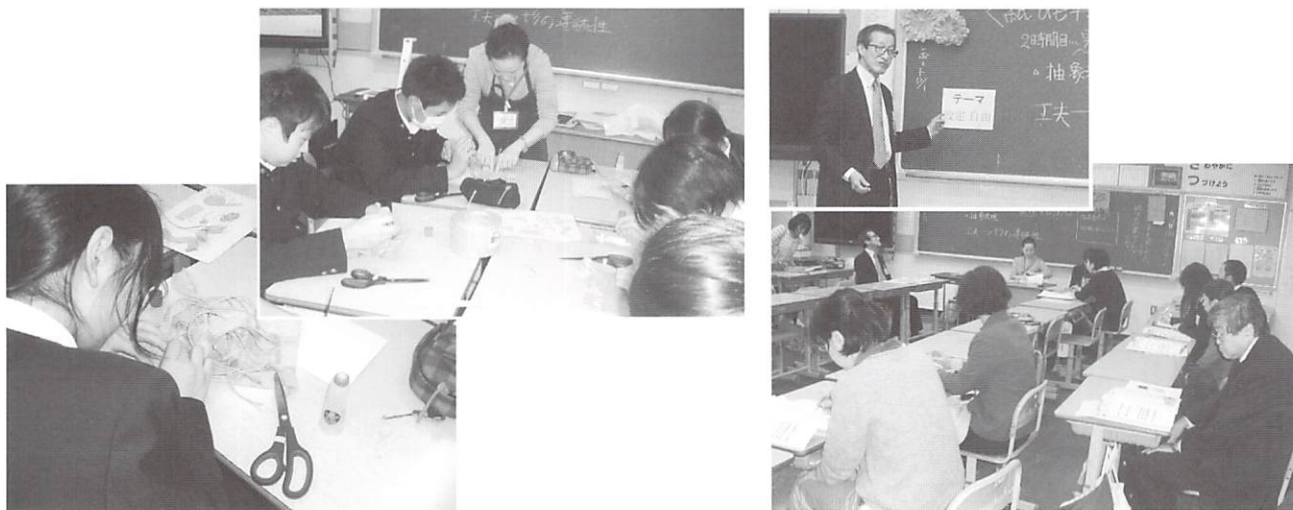
最近「抽象」に「わけのわかりにくい」というイメージをもっている子供が増えている。しかし、抽象の本来の意味合いは「象」＝かたち、「抽」＝抽出する、搾り出すということで、「形を搾り出したもの」が抽象作品である。それではどのようなものが抽象か。例えば、愛そのものの形はこれだと搾り出す。それは愛、ということで具象となるかもしれないが、形としては象徴・抽象になる。完全抽象となると、パターン、構成作品、作家も題名を付けられないようなもの（例：作品108）になるであろう。このあたりが絞られてきている生徒はどんどん制作が進んでいったと思う。本時において、開始10分あたりから生徒たちの手の動きが変わってきた。ここで注意したいのは、手が動いていればよいわけではないこと。イメージを深める、「密度を高める」というところで、悩み、試行錯誤している生徒もいる。そこを急がせないで深めさせることも重要である。

ハーバート・リードは、子供の作品を8パターンに分類した。思考型、感情型、感覚型、直感型の4つをさらに内向、外向の2つに分けた。ユング心理学もこの分け方である。思考型：写実、印象派、感情型：超現実主義、感覚型：表現主義、直感型：構成主義。このような分け方になる。そこから分かるのは、心にイメージするものが写実的なものである子、写実と写実を組み合わせているが現実離れしている子など、幅広いタイプの子供がいるということである。こうでなければならない、ではなく、表現しよう、伝えようとしたものが表されているかで評価することが重要である。

タイトルはその生徒の表そうとしたものの意識化された、デジタル化されたものである。タイトルと作品とを結びつけて評価をするとよい。言葉にできない生徒には、文章で表現させたりヒアリングしたりすることで、表現したかったものをみつけさせる。

評価の質問があったが、美術科の4観点の構造は、「美術への関心・意欲・態度」が他の3観点を下で支えるような形になっている。並列ではないことを評価の際に役立てて欲しい。

内面を表現する、なおかつ素朴な紙ひもを使った教材であり、今後の発展が期待される。



★ 研究授業記録 ⑥

研究授業	中野区立第二中学校	授業者	練馬区立開進第三中学校 高野 朱未
助言者	墨田区立両国中学校 菊田 寛 校長	司会者 記録者	練馬区立石神井東中学校 大島 貴子 練馬区立豊玉中学校 徳原 正枝
テーマ	つながり、ひろがり、翔く ～感じること と 表すこと～		
領域	A表現(2)-ア、(3)	題材名	「文様版画(スタンプ)でみんなとつながろう」 ～「つながる」ことから生まれる面白さ・美しさ～

(1) 題材設定の理由

造形活動から得られる楽しさや感動は、興味関心や発想、技能の個人差に左右される。造形活動に対して苦手意識をもつ生徒にとっては、思いつかない、思うとおりに表現できない、他者と比較して自信が持てない、などのマイナスの感情を繰り返し経験することになりかねない。得意と思っている生徒は新しい表現を求めて失敗や試行錯誤を繰り返すことを避けがちになる。スタンプ版画の手軽さと、クラスメートとのコラボレーション、他者作品とつながることで偶然に生まれる面白さ、美しさを通して、個人では得られない創造の喜びを味わえると考えられる。

(2) 学習目標

(本時)

- ① スタンプ版画の技法を理解し、自分の意図通りに刷ることができる。
- ② 自作品を試し押し、連続性や造形的表現を味わうとともに、デザインを検証する。
- ③ 他の人の作品とつながることで生まれる面白さ、美しさを見つける。

(題材全体を通して)

- ① 文様の成り立ちや特徴を理解し、生活の中や作品制作を豊かにする糧とする。
- ② 個で完結せず、連続させたり他者とつながることで生まれる発展的な造形表現や新しい感動に気く。

(3) 評価の観点

評価の観点	題材の評価基準 (Bの規準)
美術への関心・意欲・態度	文様の特徴と連続性の原則を理解し、より良い制作をしようとする。
発想や構想の能力	テーマに沿った連続文様を豊かに発想し、効果的な構図や用具選択などの構想を練っている。
創造的な技能	作画・作図を追求し、さらに用具を使いこなすことでアイデアを明確に表現している。
鑑賞の能力	単独作品がもつもの、連続作品から生まれるものの双方に対して造形的な美しさを見出し、対象の見方を広げ深めている。

(4) 学習活動

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
導入 5分	・前時の振り返り ・本時のめあてと作業工程を確認する。	・前時の資料や生徒作品を提示する。 ・行程を板書し、自主的に作業がすすめられるようにする。	作業の流れを理解できている。	・前時の創作活動を振り返り、本時の目標を明確にした上で、テーマ性と作業手順を意識付ける。
展開 35分	・個人用の半紙に試し押しをする。 ・共同制作用紙にスタンプする。 ・色や形の効果を考察しワ	・偶然性の魅力を伝え悩みすぎず柔軟にスタンプするよう呼びかける。 ・効果的な表現が現れたときに、具体例として全体	積極的にスタンプをし、作品を発展させることができる。	・スタンプが行儀良く並ぶだけでなく、自由につながっていくことを引き出す。 ・一人で複数スタンプし

活動時間	活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点等
	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入する。 文様がつながることで生み出される効果を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> に紹介する。 個、部分、全体など作品を見るポイントを示唆する。 		ても構わない。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 意見を発表する。 他者の発表や鑑賞をふまえて、本時の感想や自己評価をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> つながることにより意図的、偶発的な効果が生まれることを理解する。 個人的な造形活動の喜びから、他とつながる発展的な造形活動の価値を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品からつながりの効果や造形的魅力を見つけワークシートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 共同制作や他者の意見から、個人では気づけないものの見方や価値の創造があることを指摘する。

(5) 研究協議

●授業者自評

パターン文様については色々な方が実践されているが、今回の授業では個人での制作から発展して“クラスでつながる”という方向で教材研究を行った。そして“つながる”ということでは、偶然性を楽しめるような題材にしたいという狙いがあった。偶然性を楽しむためには、思ったらパッと作業ができて、失敗を怖れずにどんどん発展していけるという簡易さ・手軽さが必要で、今回使用する素材については、スチレンボードを使った簡易的な版画（スタンプ）を採用した。切り紙でつなげる題材なども検討したが、一枚で終わらずに伸び続けていけるものとしては、スタンプタイプの版画が適しているということで採用した。機動的にどんどん作業が進められるように、スチレンボードや使用する用紙にあらかじめ印をつける等下準備をして授業に臨んだ。

本時の授業では班で相談しながら共同作業を行ったが、前時の授業で“生徒が考えて版を作る”という作業の段階では、各自が黙々と続ける姿があった。今回いざ皆でやる場面になった際には、お互いが相談したり、リアルタイムで感想を伝え合ったり、積極的に関わり合う姿が多く見られた。その反面、一つ一つを検証して深めるには、もう少し時間が必要と感じた。途中ワークシートで自分の作品を振り返ったり、班で作品が完成した際に、班で鑑賞したりしたかったが時間の制約があり、今回は班長に代表で発表してもらった。授業の後、発表では言えなかったことを伝えにきた生徒がおり、“みんなと頑張れて楽しかった”という言葉を残してくれた。最後の発表の方法などは今後の課題だが、一人一人の中では芽生えたものがあったのではないかと思う。

●協議

質問：評価はどうすれば良いのか？

解答：最初に“自分が作った版を押してみる”という工程があり、そこでの作品を通して“つながりを意識できているか”“作業は丁寧にできているか”などを個人作品で評価する。合わせてワークシートで“他者の形とつながった時の意見感想”を書く欄があり、そこでも評価する。共同制作自体は、“楽しめたか”、“積極的に参加出来たか”など意欲の部分での評価となる。

質問：個人での作業の狙いは「計画性」、共同での作業では「偶然性」というように、狙いが違ってくると思うが、どちらに重きを置いて授業を作られていたのか？

解答：評価評定のために、個人での作品を作らなくてはならないという前提があった。そこで、個人の作品で“文様の連続性の規則性の理解”“造形的な美しさの追求”ということをおさえる。そして発展形として共同作業の偶然性の中で“つながることで見えてくるもの”に気付き、その子供の造形的な感性のスタートとなるという狙いがある。

自分の方向性としては、前半の個人制作7、共同制作3くらいの割合と思っている。

質問：インクはどのようなインクを使用していたのか？

解答：水彩の版画インクを使った。油彩の版画インクの方が伸びが良いが、“手際よく直接塗る”“汚れてもすぐ拭ける”という点が今回の題材に適しており、水彩の版画インクを選んだ。

質問：“つなげる”ためのルール作りはあったのか？

解答：1時間目に“つながる”ためにはどのようなルールが必要なのか？という確認を行っている。

感想：時間が無い中での作業に、色々な工夫がされていた。以前美術の授業が2時間続きだった頃には共同制作を行っていたが、時数が少なくなってからは諦めていた。今回のような工夫をすることで、今の時数でも、共同制作が可能だと感じた。

感想：一人で制作しているとうまくいかない生徒もでてくるが、皆で制作すると、なんとなく良い出来上がりになり、達成感が得られる。

感想：グループでの話し合いの中で行われる言語活動には、美術以外の能力も必要となってくる難しさもある。

感想：給食用のテーブルクロスに版を押すことで、使用しながら鑑賞するという授業の展開の可能性もあるのではないかな。

感想：“つながる”というキーワードが色々な形で現れる授業だった。先生と子供のつながり、グループワークを通しての子供同士のつながり、色のつながり、形のつながり、そして、小学校の図画工作とのつながりも感じられた。中学生としての学びでは意図をもって、作り上げていくという要素を盛り込んでいくこともあってよいと思う。

●指導講評（墨田区立両国中学校 菊田 寛校長）

今回の授業で、まず子供たちが楽しそうであった。文様が現れた時に子供たちの「わーっ」という感動の声があり、そういったものが大事で子供たちにはとても良い活動だった。この題材には小学校の造形遊びからのつながりもあり、色々なものが凝縮されていた。今回は2時間の題材であったが、2時間で終わる題材ではなく、もっと深めていくことができる。最後に行っていた班長が感想を発表する場面などは、班で作品についてテーマを考えたり、もっと意見を交換したりして発表することで、鑑賞の授業としても行うことができ奥が深い題材だと思う。

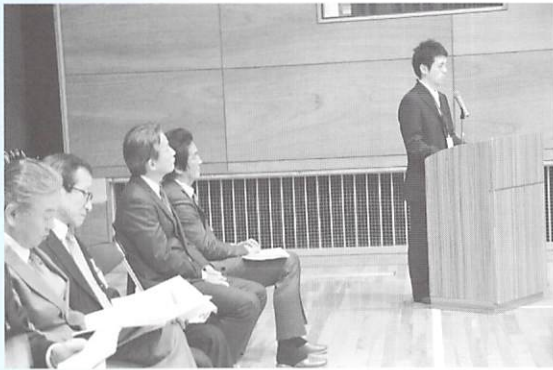
授業の視点として、今回の題材は版画ということであるが、デザインといってもよい。指導要領解説にもあるが、「絵、彫刻、デザイン、工芸といった枠組みだけでなく、生徒の実態などを踏まえて幅広く題材を考えることが重要」であり、今回の題材のように、枠組みをあまり意識せずにこれからの活動を進めていってもよいと思う。また、創造活動の喜びは「イメージを基に自分が表現したいことをしっかりと意識して考え、それが、自分の表現方法で作品として実体化されたときに実感することができる」ものであるが、今回の題材はまさにそういった題材であった。

授業の流れとしては、何をやれば良いかわかりやすい授業（目標の明確化）となっていて良かった。1時間目の授業で、“最後に文様をつなげる”という目標を理解させることができていると、子供たちはそれを意識して本時の活動を行っていた。子供たちに作品がどういったものになるのかということをしかりイメージさせて制作に入っていくことが重要で、それによって子供たちが自分で考え、思考・判断をしていって作っていくことができる。



3 全体会

全体会
 開会式
 主催者あいさつ
 東京都中等教育研究会会長
 東京都立大塚中学校長
 東京都立大塚中学校長 磯村 晴廣
 実行委員会あいさつ
 大会実行委員会代表
 中野区立第二中学校長 池田 浩二
 来賓挨拶
 中野区教育委員会教育長 田辺 裕子 様
 主催者あいさつ
 大会研究部長
 行基区立文清中学校 大井 和広
 記念講演
 森積賢真士
 林 伸太郎 先生
 閉会式
 謝辞
 大会副実行委員長
 練馬区立石神井東中学校長
 江田 大吾 様
 実行委員会代表
 西東京市立田原第四中学校長
 土野 政生



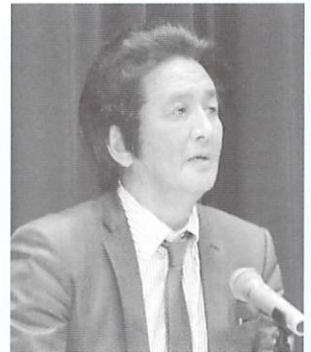
①主催者あいさつ

東京都中学校美術教育研究会会長

葛飾区立大道中学校長 殿村 靖廣

今、ご紹介をいただきました東京都中学校美術研究会を代表しまして、ひとことごあいさつをさせていただきます。

まず本日、第32回東京都中学校美術教育研究大会の開催にあたりまして、中野区・杉並区・練馬区各教育委員会、各区の中学校校長会、またそれぞれの区の教育研究会の皆様方のご理解とご支援をいただきまして本日開催することができました。本当に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



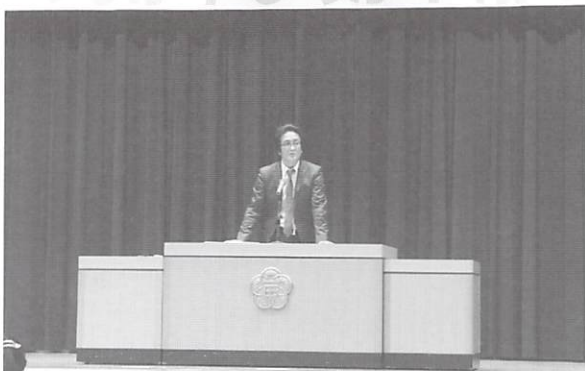
この東京都中学校美術教育研究会は、毎年研究大会を行っています。都内を10のブロックに分けまして、毎年開催するという形で、これはそれぞれの地区で研究発表をすることにより、造形美術教育研究会のあり方や、あるいは新しい美術の授業の工夫・改善であったりとか、あるいは美術の先生一人一人の資質の向上に向けた取り組みという位置づけをしております。

昨年度、10年ぶりに「全国造形教育研究大会」が東京で開催されることになりました。東京都中学校美術教育研究会と全国造形教育連盟、また東京都図画工作研究会との共同開催という形で行わせていただきました。大会のテーマは「造形教育のダイナミズム」として、「成長」と「連携」の2つの視点で研究を行ってきました。研究実践においては、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・特別支援、そして美術館と異校種に渡りまして、共同研究という形で行ってまいりました。この異校種間の取り組みは造形美術教育のあり方を見直していく非常に良いきっかけとなりました。特に、研究の中で生まれてきた「学びの連続性」「指導の連続性」というものはこれからの造形美術教育の方向性を示す良いきっかけとなったのではないかと考えています。

今回の第3ブロック大会は、昨年度からの流れを受けて「つながる」をキーワードに研究をすすめていただけました。大会テーマも「つながり、ひろがり、翔く」～感じることと表すこと～として、造形美術教育を通して、様々な事象と「出会い」「発見し」「かかわり」をもたせる実践を行っていただきました。

本日6本の授業研究を7人の先生方に、そして誌上発表の方では6本の授業の実践を載せていただきました。展開された授業を見させていただいて、やはり昨年度の実践からまた一步、前へ進むことができたのではないかなと実感しております。そして本研究大会の成果として、それぞれの地域に戻って、それぞれの美術教育の一助にさせていただければと思っています。

最後に、中野区立中野立第二中学校の校長先生を始め教職員の皆様には、多大なご協力をいただきました。本当に心より感謝申し上げます。そして最後に、この大会の運営にあたっていただきました3区美術科の先生方、色々と一年かけて準備をしていただきありがとうございました。本当に良い大会ができたと思っています。



②実行委員長あいさつ

東京都中学校美術教育研究大会実行委員長

中野区立第二中学校長 池田 浩二

このたびは非常に多くの皆様に第32回東京都中学校美術教育研究大会第3ブロック中野大会に参加いただきましてありがとうございます。この大会が開かれることの意義、そしてそれを実践することができたことを非常に嬉しく思っております。

私たちが生活している現代社会を見ますとめまぐるしい変化を日々とげています。私たちが関わっている美術教育だけを見ても、本日の研究授業や誌上発表の中にもありますがタブレット端末やデジタルカメラ、そして3Dプリンターなどという新しいツールがどんどんと普及してきています。そして、そのような最先端の機器をやすやすと使いこなす中学生がいます。また、私たち美術教師を取り巻く環境を見ましても少子化の影響で学校の規模が縮小し、学校の再編が進み、各学校における美術教員の数も減ってきています。それにより、これまでベテランの先輩教師から教わっていたようなことを知る機会も学校現場からどんどん失われているのではないかと危惧しております。そのような中で今回第3ブロック中野大会は「つながり、ひろがり、翔く」をメインテーマに取り組んでまいりました。

美術教育を通じて、生徒たちの感性や創作意欲が「つながり、ひろがり、翔く」ことの可能性については、本日の6本実践させていただいた研究授業と6本の誌上発表に見ただけのかと自負しております。

そしてもう1つ、都内全域から美術科教師が集まり、造形教育の実践という共通の目標に向かって研修をすることができるこの大会を開くことができたということは、私たち美術科教師が経験の有無や置かれている環境を越えて「つながり、ひろがり、翔く」ことができるチャンスを作ることができたのではないかと感じています。今日の機会をさらに発展させていただき、いろいろ学び合う場を自分たちでも作っていければ本大会が本当に意味のあるものになるのではないかと感じています。

最後になりましたが本大会の開催に当たり、ご指導ご支援をくださいました東京都教育委員会、中野区教育委員会をはじめ杉並区・練馬区の各教育委員会、そして本大会を通して指導・助言をいただきました先生方、並びに本日ご講演を賜ります林 伸太郎様に厚くお礼申し上げます、あいさつとさせていただきます。



③教育委員会祝辞

中野区教育委員会事務局

統括指導主事 近津 勉

ただ今ご紹介をいただきました、中野区教育委員会事務局 統括指導主事 近津 勉でございます。

本来でございましたら、教育委員会 田辺 裕子教育長からごあいさつ申し上げるべきところではございますが、現在、第四回定例議会が開催中でありまして、この場にお伺いすることができません。成り代わりまして、平成26年度 第32回東京都中学校美術教育研究大会の開催にあたり、ごあいさつを申し述べさせていただきます。

まず、本会が、ここ中野区を会場として開催されますことに、心より御礼申し上げますとともに、皆様を歓迎申し上げます。

さて、ご案内のとおり、現行の中学校学習指導要領の美術科では、「子供の発達段階に応じて小学校の図画工作科や高等学校の芸術科との連続性に配慮して、共通に働く資質や能力を整理するとともに、生活や環境の中の造形よさや美しさなどを感じ取る学習や、自分の気持ちや伝えたい内容などを形や色、材料などを生かして他者や社会に表現する学習を一層重視する」ということが示されています。

本大会の研究テーマにある「つながる」、「ひろがる」、「感じること」、「表すこと」は、現在の美術科教育のキーワードであり、日々の授業を通して実践し具現化していく力量が先生方に求められていると言えます。

本で行われた研究授業でも、生徒が友達や作品、作品同士のつながりから、様々な発見や気づきを広げたり、表現したりしている場面を多く見ることができました。

また、会場に展示されている作品を見て、中学生の感性や表現力の豊かさにあらためて感心させられているところでございます。

実は、現在、中野区では、「小中連携教育」に取り組んでいます。具体的には、小学校6年生を対象とした中学校での授業見学や授業体験、などを行う「オープンキャンパス」、小中学校それぞれの教員が、相互に乗り入れて授業を行う「乗り入れ指導」の実施などを行っているところです。

先日、中学校の美術科の教員が、小学校で授業をしたという報告も受けており、中学校の教員の専門性を活かした指導が可能になり、小学生が生き生きと活動できたという成果がありました。

こうした取組により、小中学校の教員が、お互いの指導観や指導法・指導技術を学ぶことができ、授業力の向上や9年間の連続性のある教育課程の展開につながっています。

本会の研究が、生徒一人一人の感性や情操を養い、心豊かにたくましく生きていく力の育成につながるるとともに、先生方が互いに学びあい、先生方お一人お一人の授業力、ひいては資質の向上に資する取り組みとなりますことを、ご期待申し上げます。

本日は、研究授業の助言者として、各分科会ごとに校長先生方においでいただきご指導いただきました。校長先生方、分科会でのご指導ありがとうございました。

また、この後の、講演会では、義肢装具士の林 伸太郎様からご講演をいただくと伺っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

結びになりますが、今年度の会場校である中野区立第二中学校の池田校長先生をはじめ、本研究大会の開催にあたり、ご尽力いただいた多くの先生方ならびに関係の皆様へ感謝申し上げますとともに、本会の益々のご発展を祈念いたしましてあいさつとさせていただきます。



④基調提案

杉並区立天沼中学校 大出 和広

昨年度の研究大会は、「造形教育のダイナミズム」をテーマとして、成長と連携の二つの視点で研究を行いました。提案された「成長」としての育ちと「連携」のつながりは、今後の造形美術教育の方向性を示すきっかけとなりました。

今年度、夏季研修会において「成長」と「連携」をテーマとして、授業力向上に向けた研修を進めてきました。研修の中で、①「他校種との縦のつながり、企業や美術館等との横のつながり」、そして、②「成長」をキーワードに、資質・能力の核となる「発想構想の能力」、さらに、③日々の授業の中で捉え直す「育成する資質・能力の明確化」の三本の柱が示されました。

本研究大会では、昨年度からの研究成果をさらに具現化していくことをねらいとして、大会テーマを「つながり、ひろがり、翔く ～感じることと表すこと～」としました。「つながり・連携」、「育成する資質・能力の明確化」に重点を置き、基本に立ち返りたいと考えています。そして、授業の中で教師が当たり前に行っていた「つながり・連携」をもう一度丁寧に捉え直し、「生徒に身に付けさせたい資質・能力」の育成に向けた授業を展開していくことで、成果と課題について検証していきたいと考えています。

テーマの「つながる」とは、他者（個・集団）とのつながり、社会（地域・企業等）とのつながり、自然（環境）とのつながり、物とのつながり、知識とのつながり、自己の内面とのつながりと捉えました。そして、聞く、知る、考える、話すといった言語活動（コミュニケーション）とともに、見る、触れるなど視覚・触覚活動など駆使して、様々な事象と出会うこと、発見することにつなげていきたいと考えています。

「ひろがる」とは、生徒自身が、更なる出会いを求め「つながる」ことを拡張、深化させたり、より豊かな感受性を得るために感覚や感性を磨いて知覚を高めさせたりするなど、自ら探究心を高め、資質・能力を伸ばしていくことと捉えました。

「翔く」とは出会い、発見し、探究したものを「受け継ぐ」「発信する」「表現する」ことによって、互いに関わり合っていくことで、生徒個々の感性を高めていくことにつながるのではないかと考えました。

以上のことを踏まえ、これら一連の流れにおいて、教師がどのように関わり、生徒の学びを導いていくべきか皆さんと検討していきたいと考えています。

今回、各研究授業では、日常の授業を深化させ、「つながり・連携」を切り口に、様々な形で「生徒に身に付けさせたい資質・能力」を提示してきました。

羊毛という自然素材に触れ、感性を働かせて、発想構想を広めるとともに、自他の心を見つめる鑑賞につなげる。大画面での鑑賞と意見交換を通して、新しい見方、感じ方を獲得させる。スケッチを通して、描く側、描かれる側からお互いを見つめ、他者とのつながりを改めて考えさせる。幾何学模様によるつながりを題材として、色や形がもつ美しさ・面白さをより深化させる。日常、何気なく使っている素材を活用し、日常生活と美術との新しいつながりを発見させる。模様のもつ連続性を使い、生徒同士の作品をつなげていく中で美しさや感動を味合わせる。

これらの授業を通して、様々な形での、生徒の五感への働きかけが知覚を高め、より豊かな感受性の育成と、探求心の向上につながり、更なる感性の高まりへ向かっていくものと思います。

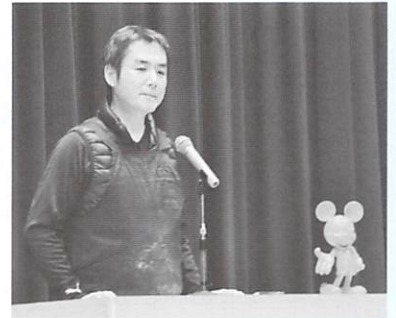
以上をもちまして、基調提案とさせていただきます。



⑤ 記念講演「ものづくりと気づき」

講師 義肢装具士 林 伸太郎

ものづくりをしていると失敗もありますが、スタッフには「失敗作も絶対捨ててはならない」と言っています。失敗をとっておくことで、それが無駄ではなくなる。失敗した指を持参していますので、皆さんでご覧下さい。講演というよりも、授業みたいな感じで進めていきたいと思います。中学生を相手に話をすることもあります。まず、興味をもってもらわないと、話を聞いてもらえません。



美術って、人に表現を「伝える」「繋げる」奥の深いものだと思います。人を育てる力が全部入っているのが美術なのだとも思いました。人は「伝える」生きもの。喜怒哀楽等々伝えることだけで生きている。美術だけではありませんが、人は伝えようとする生きもので、美術も伝える手段の一つ。そう思います。

物づくりをしていると、どうしても一方通行になりがちです。愛和義肢製作所の愛とは仕事に対する僕の姿勢です。和とはコミュニケーション。僕は作ることを通して気持ちを伝える。最初のうちは、それに気が付きませんでした。作ってもそれを喜んでくれない方がいると、それが理解できませんでした。「物づくりは一方通行になりがちだ、相手がいるんだ」そのようなことにやっと気づいたのが二十歳過ぎてからでした。

人は、気づきがあって伝える。「気づき」と言う言葉を意識しながら、最近、僕は過ごしています。人は伝える生きものだという前に、人は「気づきだけで支えられている」と言うのがとても実感できます。僕は今、40歳なのですが、あと20年と考えたときに7000日。7000の気づきを得たら、どこまで行けるかと考えてみますと、たいしたことないのではと思います。でも、欲張らずにほんのちょっとだけ背伸びをすれば、見ることの出来なかったものが見ることが出来るかもしれない。そう思って、最近は毎日を過ごしています。

ここに指4本のミッキーマウスの人形があります。「指4本だって人気者になれるのだ」というウォルト・ディズニーのメッセージがあります。その考えを受け継いだのが、手塚 治氏です。最初の鉄腕アトムは指4本でしたが、途中で指5本になってしまいました。差別だと世論が騒ぎました。その頃から障害者に対する考えが少しずつ歪んでいったのです。これは僕の作り話です。本当の話じゃない。でも、多分そうだろうと思います。当時、世論が騒いだのは本当です。受け入れる社会が「これで良いよね」それが50年、60年続いていたら、もしかしたら、僕の仕事は必要なかったかもしれない。必要なくてよいのだとも思います。

たまたま、僕は作るのが好きで形にはできます。ある日、祖母と二人で山形から中学二年の女の子が訪れました。生まれつき手の真ん中の指が短い女の子で、指を作りに来たのです。しかし、作った指をつけても、喜ばないのです。正直なことを言わせると必要ないと思っていたのです。指が短いことを気にしている周囲の人に気を遣ってここに来たが、自分は今の指でかまわない。僕はそれが正解だし、必要なくてよいと思います。作った代金はもらわないで、作ったものは差し上げました。そして必要のないと言うことを、山形に帰って周囲の人に話なさいと言いました。

製作所には一人一人物語がある。現在200~300の物語です。感動すると、まず泣きます。その次におかしくなって吹き出します。僕はその向こう側まで見てみたい。義肢装具士、ちょっと背伸びをして、新しくしていかなければならないと思っています。

「伝える」と言うことを意識したのは4~5年くらい前です。日本でナンバー3の手の外科医の先

生から「伝えなさい」と言われました。「それは企業秘密、外には出せない」と、その当時の僕は思っていました。しかし、「僕一人しか出来ないことなんて、なんと小さいのだろう」と最近は思います。200人の依頼者に対して自分一人が出来ることは、本当に小さいです。一生かけたとしても、ほんの少しのことです。だから伝えて残さないとならないと思いました。ただ、技術を伝えることは難しいです。



大半は、伝えると目減りしてしまいますから。たゆまぬ技術として伸びてくれるように伝えなければなりません。それが出来たら、初めて伝えたになります。教えるのではなく、たゆまぬ技術として伝える。それは、ものすごいエネルギーを使うことだし、いろんなことを試していくことです。でも、それをしてきたからこそ、医学の進歩があったりとか、人が月にいけるようになったりしたわけです。

「たゆまぬ技術を伝える」どうやって取り組み、どう考えるべきなのか？自分を頼りにしてきてくれた人に応えることとは…しかし、僕はすごく単純な繰り返ししかやっていません。「期待に応える」そのために何が足りないか。22、3歳の頃、つくれるようになりたくて世界中を回ったことがあります。しかし、「なにを人に教わろうとしているのだろう？お金を積めば、そこに行けば、教わって技術を得ることが出来ると思っている。なんて自分は甘いのだろう」と、思うようになりました。自分の中に理想があるのならば、人に教わるのではなく、自分で作ってしまえば良い。そう考えてからは、何の迷いもなく、作り続けています。

多くの場合、学ぼうとする、教えてもらおうとする。そこが怖いところです。僕は教えて欲しいというスタッフによく言います。「自分は答えを得るのに99の失敗をしている。今教えて、99失うことが怖くないなら教える」と。人に教わると、分かった気になってしまいます。あたかもそれを導き出したかのような錯覚を起こします。僕は、今まで本を一冊も読んだことがありません。40歳の現在まで読まなかったの、貫いてみようかと思っています。自分は影響されやすいので、自然体を守っています。

作っているとつまずくことがあります。どうしても形にならなくて、何度やっても失敗する。つまずいて、息子が6歳の時に聞いたら、「できるまでやれよ」と言われました。「そうだよな。」と思って、当時やりました。最近、一番下の娘が6歳になりました。同じことを聞いたら、「寝ないでやりな」と言われました。9歳の真ん中の娘に聞いたら、「まず、出来ないことを説明して、待っているから。それから、頑張ってみて」と言われました。僕の取り組み方というのは、僕の中では単純明快の6歳児なのです。「出来ない」「期待に応えられない」というのが一番怖い。「出来ません」とは言えない。すごく臆病なのです。だから、出来ることの方へ逃げる。昔は出来る方に挑戦していたかもしれない。そうすると、重すぎてやられる。「出来ることを増やしていこう」と思ったら、ちょっと肩の荷が下りました。

福島原発の近くが僕の実家です。最近、墓参りに行きました。中学校に立ち寄ったとき、汚染された物が入っている黒い袋が4段重ねくらいにびっしり置かれている。それを見たときショックでした。本当の優しさって、「解決の方向に導けること」だと思います。期待に応えられるように日々努力をする。いろんな大人、いろんな専門家が集まっても解決できないことがあります。福島原発が解決されるのは、20年、30年先だと言われています。解決してくれる可能性があるのは、今の小学生、中学生になります。我々の時代で解決できなかったことをしっかりと自覚して、たゆまぬものとして次に伝えなければなりません。「頼んだぞ」と、伝えなければなりません。「自分たちには出来なかった」と、認めなければなりません。是非、皆さんはこれからも優しい大人でいてください。

⑥大会副実行委員長謝辞

東京都中学校美術教育研究大会副実行委員長

練馬区立石神井東中学校長 堀井 安伸

まずは、ただ今、ご講演いただいた義肢装具士の林 伸太郎様には、大変ご多用の中、素晴らしいご講演をしていただきました。とても貴重なお話しと、美術教育に携わる者へのご示唆をいただきました。先生の作品である義肢の精巧さに驚いたとともに、ものづくりに対する強い思いに感動させられました。特に、お話し中で「気付き」と「伝える」というキーワードがありました。これは、我々美術教員にも共通するものがあると感じました。子供たちの変化や成長に気づくこと、そして美術は「教える」というよりも「伝える」という姿勢が大切なのではないかということです。明日からの教育活動に活かしていきたいと思いました。ここに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



さて、現行の学習指導要領では、家庭や地域社会との連携を深めることや、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの連携や交流を図るとともに、障害のある児童生徒との交流及び共同学習の機会を設けることが示されています。

また、特にICT機器の進化発展は驚くべきものがあります。本大会でも活用されたデジタルカメラも、より小型化され高機能に、また立体をコピーすることが可能な3Dプリンターなど、最先端の機器の活用を視野に入れた不易と流行という課題が迫っていることも事実です。

本研究大会では、この学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに社会の著しい変化をも意識して「つながり、ひろがり、翔く ～感じること と 表すこと～」を大会テーマとして研究に取り組んで参りました。連携と発展、そしてさらなる可能性について考える機会と、大きな課題に向き合う良い機会とすることができました。

本で行われた、「私の形を表現しよう」では、通常学級と特別支援学級とのつながりの場を作り、「写真を空間で体験し、味わおう」では、写真作品を大画面で鑑賞することで、鑑賞の能力のひろがりを図る工夫をしました。また、「クロッキーで再発見」でも、他者を丁寧に描く中に他者とのつながりを改めて感じさせ、「つながる形・組み合わせる色」では、自分のもつイメージのひろがり具現化する楽しみを味わえるようにしました。「紙ひも半立体」では、日常生活と美術との新たなつながりを発見させ、「文様版画（スタンプ）でみんなとつながろう」では、他者とつながることで感動を味わわせる授業としました。「つながること」「ひろがること」そして「さらなる可能性にはばたくこと」を意識した授業実践と誌上発表、「表現」と「鑑賞」とのつながり、そして「基礎・基本」から「応用」へのひろがりを目指した提案ができたものと思っております。

本研究大会の成果を、ぜひ、各地区における今後の実践の一助にいただければ幸いです。

結びになりますが、ご挨拶いただきました中野区教育委員会教育長田辺裕子様、中野区教育委員会事務局統括指導主事近津勉様には、本研究大会に対して励ましと期待をいただきました。本当にありがとうございました。

そして、東京都教育委員会、中野区、杉並区、練馬区の各教育委員会、東京都中学校長会、東京都中学校教育研究会、中野区中学校長会並びに中野区教育委員会の皆様にはご支援ご理解、ご指導を賜り誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さらに、会場を提供していただきました中野区立第二中学校の教職員の皆様、出前授業を受けてくれた第二中学校の生徒の皆さん、本研究大会運営委員の方々、関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

これからの中学校美術教育の発展を願い、本研究大会を各方面で支え励まし、ご指導いただいた皆様に心から、御礼申し上げます。ありがとうございました。

⑦次回大会副実行委員長あいさつ

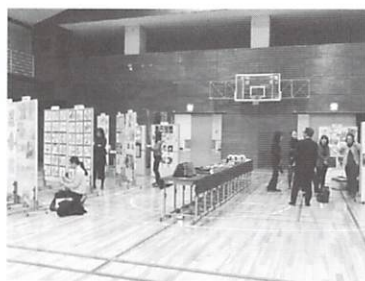
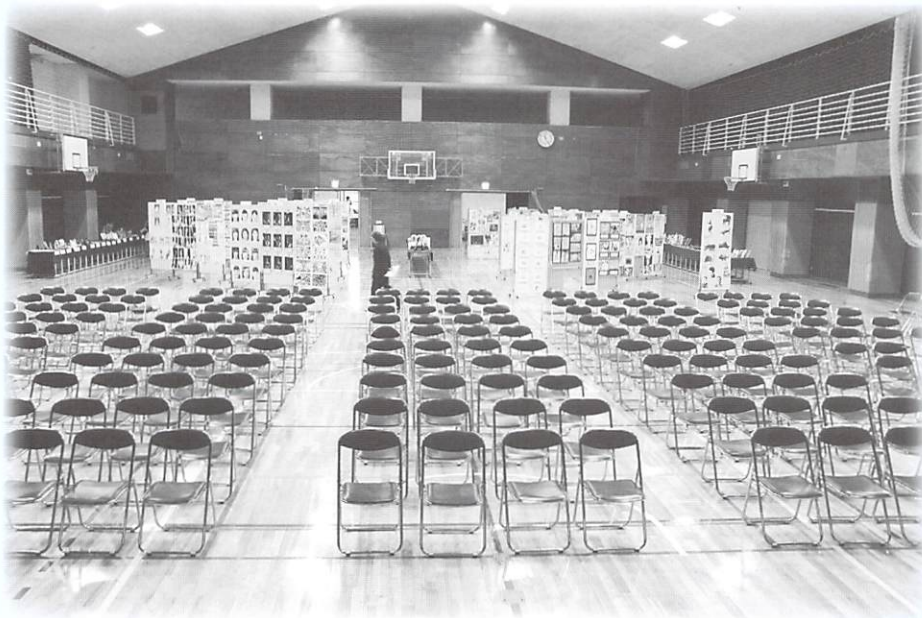
西東京市立田無第四中学校長 大野 雅生

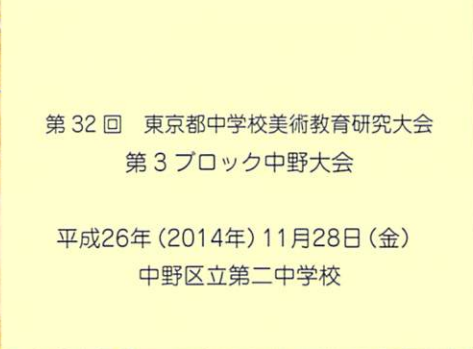
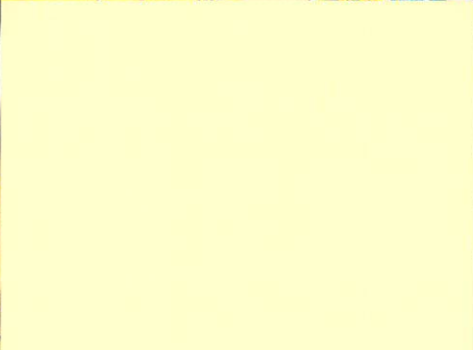
第32回 東京都中学校美術教育研究大会が盛大に開催されましたことに敬意を表したいと思います。大会に向けて取り組まれてこられました先生方には「つながり、ひろがり、翔く ～感じることと表すこと～」という視点を授業に生かしながら、大会運営に取り組まれてこられたと実感させていただきました。

来年度は、第33回東京都中学校美術教育研究会を第10ブロックの東村山市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、西東京市の6市38校で開催させていただきます。会場は、東村山市立東村山第七中学校とし、会期は平成28年2月5日（金）とさせていただきます。大変寒い時期ではありますが、10ブロックの先生方の日々の美術教育活動を結集し、明日への美術教育につながる研究大会を目指してまいります。お集まりいただいた先生方の熱気で寒さを吹き飛ばすような活気ある大会になるよう進めていきたいと考えております。

毎年開催いたしております、北多摩地区公立中学校美術展でのつながりを生かし、北多摩地区の力を結集して大会に向けて努力してまいります。ぜひ、多くの先生方のご参加をお待ちいたしておりますので、東村山にお集まりくださいますようお願いいたします。







第 32 回 東京都中学校美術教育研究大会
第 3 ブロック中野大会

平成26年(2014年)11月28日(金)
中野区立第二中学校

